

別紙様式

平成27年度 山口市立上郷小学校 学校評価書 校長(舩谷 晃)

1 学校教育目標
教育目標……夢や希望をもち、未来に向かってはばたく やさしく・かしこく・たくましく「なぎっこ」の育成 中・長期目標……「だれにでも思いやりがもてるやさしい子」「自分で考え、行動できるかっこいい子(正しい子)」「夢や目標に向かってがんばる強い子」
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直であり、外遊びをよくする児童が多い。また、学力及び読書量に個人差が大きい。 ・与えられた課題によく取り組む、基礎的・基本的な学習内容の理解や定着は身についてきたが、読解力や思考力・表現力の育成が課題である。 ・夢や希望をもって中学校に進学し、安心して中学校生活が送れるように小・中学校の継続的なさらなる連携が必要である。 ・家庭における望ましい生活習慣や家庭学習習慣のさらなる形成が必要である。
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ型校内研修による授業力の向上(一人一授業研究・授業公開の実施) ・「あいさついっぱい、読書いっぱい、おもいやりいっぱい」の楽しい学校づくりと「なぎっこ運動タイム」による目標をもった体力づくり ・中学校との連携による夢と希望をもった進学、並びに家庭との連携による望ましい生活習慣の形成

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価	
やさしい子(徳)	明るく活気のある楽しい学校づくり	・「あいさついっぱい、どくしょいっぱい、おもいやりいっぱい」の楽しい学校づくり	・「楽しい学校」達成率85%以上 ・「挨拶いっぱい」達成率80%以上 ・友達への敬称達成率80%以上	3	・「楽しい学校」の達成率は、児童:88.8%、保護者:94.2%、教職員:74.3%であり、評価基準を達成している。 ・「挨拶いっぱい」の達成率は、児童:84.5%、保護者:76.9%、教職員:60.5%であり、本校の課題である。 ・「友達への敬称」達成率は、児童:63.5%、保護者:80.0%、教職員:57.9%であり、本校の課題である。 ○「挨拶」と「友達への敬称」については、家庭と連携をとり、児童の委員会の呼びかけも行っていく。	・挨拶は良く気持ちがよい。思いやりは登校時にお互いをかばい合って行動して欲しい。 ・仲の良い友達同士ではどうでも敬称で呼ぶことは難しいように思うが、なるべく敬称を付けて呼ばせるように保護者も呼びかけないといけない。明るく楽しい学校運営がされている。	3.3
正しい子(知)	よく分かる授業づくりと授業力・学力の向上	・分かりやすい授業づくり ・一人一授業研究・授業公開の実施	・よく分かる授業達成率85%以上 ・授業のねらい板書90%以上 ・授業の振り返り授業評価80%以上 ・教師や友達の話を聞く80%以上 ・思いや考えを話す80%以上 ・一人一授業、授業公開85%以上 ・読書年間目標(低学年50冊以上、中高学年4000ページ以上)	2.8	・「よく分かる授業」の達成率は、教職員:60.1%であり、継続課題である。 ・「授業のねらい板書」の達成率は、教職員:74.5%であり、継続課題である。 ・「教師や友達の話を聞く」の達成率は、児童:88.8%、保護者:95%、教職員:64.6%であり、概ね達成している。 ・「思いや考えを話す」の達成率は、児童:64.9%、保護者:90%、教職員:55.6%であり、継続課題である。 ・「進んで読書」の達成率は、児童:66.7%、保護者:47.4%、教職員:58.8%であり、継続課題である。 ○教職員においては、授業作りの研修を継続して実施する。本年度は研修テーマに「自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの育成」に取り組んだ。伝え合う質を高める必要がある。	・先生によってばらつきがあるような気がする。子ども達の授業の参加などは見て待たない。 ・授業参観の機会が少ないが、子どもは授業内容を理解しているようだ。 ・色々工夫して授業を進めていく感じ。 ・国語、算数など主要教科への取組はよく達成されていると思う。音楽や園工など個々の能力の差が気になる。	3.3
強い子(体)	目標をもった体力づくりと安全な学校生活	・黙って一生懸命な掃除 ・「なぎっこ運動タイム」に外遊びをする。80%以上 ・黙った掃除取組80%以上である。 ・望ましい生活習慣確立	・「なぎっこ運動タイム」に目標をもった取組90%以上である。 ・外遊びをする。80%以上 ・黙った掃除取組80%以上である。 ・正しく安全な廊下歩行80%以上	3	・「なぎっこ運動タイム」の達成率は、児童:92.4%、保護者:92.3%であり、達成できている。 ・「黙った掃除取組」の達成率は、児童:88.8%、教職員:60.5%であり、児童の教職員の意識の差がある。 ・「正しく安全な廊下歩行」の達成率は、児童:81.8%、教職員:54.4%であり、児童の教職員の意識の差がある。 ○なぎっこ運動タイムの継続実施では柔軟性を養う運動も取り入れる。児童委員会も活用し掃除や廊下歩行に取り組む。	・学校の中で子ども達が楽しめる場があることは良い。なぎっこ運動タイムは続けて欲しい。 ・業間になると運動場から子ども達の声が響いて体力作りに励んでいる様子が伺える。 ・子ども達が積極的に取り組んでいる様子である。	3.4
つながり(連携)	中学校及び家庭との連携	・中学校との情報交換会及び相互訪問の実施 ・学校便り発行やホームページの更新、保健便りの発行及び学校保健委員会等による啓発	・月1回以上のAFPY70%以上 ・中学校との情報交換会、2回以上の相互訪問、中学校からの授業参入、校内研修会招待80%以上 ・月2回以上の学校便り発行、及び月2回以上のホームページの更新をする。 ・キャリア教育の実施70%以上 ・家庭学習をする80%以上	3	・「月1回以上のAFPY」の達成率は、6割弱と低調である。定期的にAFPY研修を継続実施しレパートリーを増やす。 ・「キャリア教育の実施」の達成率は、63.3%であり、「家庭内での決まった手伝い(仕事)をしている」達成率は、保護者:62.5%、児童:72.2%である。農大との交流学習や近隣の施設の見学を通じて意識を高めていきたい。 ・「家庭学習」の達成率は、児童:84.4%、保護者83.6%であり良好である。今後は自主学習を積極的に取り入れ質の高まりに期待する。 ・学校・学年・学級便り、ホームページによる情報発信の到達率は、保護者:86.7%、教職員:74.9%であり、継続課題である。	・農高、芸大との交流学習はとも思っているし、大切な事だ。外に出て児童の挨拶も良くなると思う。 ・キャリア教育、家庭内での手伝いは将来の家庭を築く大切な目標であり、是非意識して高めていきたい。 ・色々な取組を今後も継続して広めて欲しい。	3.3
業務改善	学校の組織等		4.効率的な仕事分担である。 3.誰がどんな仕事か分かる。 2.仕事を誰がするか分からない。 1.効率悪く、仕事内容が重なる。	2.9	・「仕事分担の差が大きい。仕事の質と量に個人差があるという意見があった。今後は3つのプロジェクトチームを意識し分担して仕事が出来るように次年度の教職員組織を改編する。また、地域協育ネットやコミュニティ・スクールと連携した教職員組織となるようにする。	・先生方の負担を少しでも軽減するように協力できる事はしたい。 ・教員の手助けとなるような地域協力はできないか。 ・先生方が毎朝早く出勤し、夜遅くまで本当に熱心に取り組んでいることに感謝している。体調管理に気をつけて子ども達のために協力をお願いします。 ・安心して教室に預けていただけるように改善して健康状態を上げて欲しい。 ・子ども達を夕方まで見て、その後も業務が沢山あり、どう考えても良くならないような気がする。中学校のような分担が必要なのではないか。 ・1年間ではこれだけという事に絞り込んでやってみてはどうか。	2.7
	日常的な業務	・資料の事前配布、協議内容と時間設定の明確化、効率のよい会議	4.事前配布し、時間内に終わる。 3.事前配布するが時間がかかる。 2.事前配布するが時間設定がない。 1.事前配布なし、時間設定もない	3	・今年度の前半と比べると会議・連絡会の時間が短くなった。時間設定はしてあるが、話しが長くなる傾向にある。 ○今後は、より時間を意識しつつ内容のある会議となるように職員会議資料に周知事項と協議事項を明確にする等の様式を決める。		
	勤務状況	・毎月第3金曜日はノー残業デーとし、時間外勤務を月40時間以内とする。	4.毎回ちゃんと実施できた。 3.時々残業となった。 2.よく残業していた。 1.ほとんど残業していた。	2.8	・効率の良い仕事を目指しているが、残業することが多かった。仕事を学校でしたため夜になることが多かった。 ・平均残業時間(H27年4月からH28年1月まで)が、43時間49分であった。 ○自己ノー残業デーを設け、自己申告で業務時間の軽減を図るなどの取組を行い、メンタルヘルスの向上に努める。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)
<p>【やさしい子】挨拶、廊下歩行については児童委員会活動の取組で改善がみられた。挨拶については、自分から先に、相手に伝わる声で行うことが課題である。</p> <p>【かっこいい子】研修テーマを掲げ一人一授業公開の元に授業改善に取り組んだ。学力向上推進教員による週に1回のミニ研修会の実施が行え共通した視点を持た。学年や学校で共通した取組を行うことが課題である。</p> <p>【強い子】児童の委員会で行った「なぎっこチャレンジ運動」を継続して取り組めた。家庭や社会体育との連携が課題である。</p> <p>【つながり】農高、芸大との交流学習が充実していた。読み聞かせ、見まもり隊、老人会などによる学校への支援が充実していた。今後は、地域協育ネットやコミュニティ・スクールを活用する。特にコミュニティ・スクールではコーディネーターを配置し地域人材の活用をまとめることが必要。</p> <p>【業務改善】部会(研修推進部会、生徒指導部会、保健体育部会)を行う時間がとれなかった、そのため仕事の偏りがあった。校務分掌組織を改善しプロジェクトチーム方式を取り入れる必要がある。</p>

7 次年度への改善策
<p>【やさしい子】挨拶の徹底、敬称、黙った掃除については児童委員会や家庭との連携を強化し継続実施する。</p> <p>【かっこいい子】学習のスタンダードの作成(学習のめあてとまとめの呼応した授業づくり、授業のふり返りの視点を学習内容と感想の区別化、条件作文の強化)</p> <p>【強い子】なぎっこチャレンジ運動の継続と家庭や地域を巻き込んだ体力づくり、外遊びの推奨を進める必要がある。</p> <p>【つながり】地域協育ネットやコミュニティ・スクールを活用する。特にコミュニティ・スクールではコーディネーターを配置し地域人材の活用をより積極的に進める。</p> <p>【業務改善】校務分掌組織を改善しプロジェクトチーム方式を取り入れる。職員会の円滑な進行のために、職員会資料様式に、学校教育目標との関連を明示、周知事項、協議事項の区別化を取り入れる。自主ノー残業デーを導入する。</p>